



国立環境研究所で

## 世界のあしたが見えるまち。

国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター  
環境ストレス機構研究室 室長

Mitsuko Aono 青野 光子 さん

東京都生まれ、筑波大学生物学類卒業、国立公害研究所(現・国立環境研究所)に入所。東京工業大学で博士号(理学)取得。現在は生物・生態系環境研究センターで主にオゾンなどの環境要因が植物に被害を及ぼす際の障害や防御の仕組みを遺伝子レベルで研究。

## つくばで輝く 女性研究者

植物の細胞内でストレスを防御するメカニズムがあります。人間やほかの動物と違って動くことができず、進化的過程で防御機構が発達してきたのです。時代と共に変化する環境の中で生き延びる植物の新たな可能性を探る。

【環境と植物】  
排気ガスなどの窒素酸化物に紫外線があたると地上近くで発生するオゾンは、いまだに解決されていない大気汚染物質。そのオゾンなどによる環境ストレスが植物に及ぼす影響を分子生物学的アプローチから解析し、植物が持つ防御の仕組みを探る。植物にとっては光や酸素も毒性があるといわれるが、「光や酸素に対しては植物の細胞内でストレスを防御するメカニズムがあります。人間やほかの動物と違って動くことができず、進化的過程で防御機構が発達してきたのです。時代と共に変化する環境の中で生き延びる植物の新たな可能性を探る。」



※国立環境研究所提供

アサガオのオゾン被害を調べる



愛犬ロップと公園を散歩

## 遺伝子から 植物のストレスを探る

筑波大学生物学類に入所後は、サイクリング部に入部してロードレースに参加するなど活動的な学生生活を送った。同大在学中の1985年に偶然訪れた環境研究所の仕事に

【自然に憧れ生物学へ】  
小学校低学年まで過ごした東京では、自宅の庭の植物や虫など限られた自然に強い興味を持ちながら、多様な自然に憧れを強めた。転居した栃木県では漫画に興味があり、高校ではアニメ部に所属。

大学時代からつくばで暮らして約35年。現在は夫と愛娘、愛犬ロップとつくば市内に在住。「娘の通っていた保育園の教育方針が素晴らしい。また柔軟な対応で助かりました。夫も料理や洗濯などの家事を担当してくれてとても助かっています。アニメや文学、絵画、音楽など幅広い芸術分野への興味があり、中高生にも分かりやすい情報発信など若手育成にも目を向ける。「つくばは身近に自然も多く、気分転換がすぐできます。暮らしやすい恵まれた環境ですね。」

【つくばの暮らし】  
大学時代からつくばで暮らして約35年。現在は夫と愛娘、愛犬ロップとつくば市内に在住。「娘の通っていた保育園の教育方針が素晴らしい。また柔軟な対応で助かりました。夫も料理や洗濯などの家事を担当してくれてとても助かっています。アニメや文学、絵画、音楽など幅広い芸術分野への興味があり、中高生にも分かりやすい情報発信など若手育成にも目を向ける。「つくばは身近に自然も多く、気分転換がすぐできます。暮らしやすい恵まれた環境ですね。」

感銘を受けて入所を決意。分子生物学や植物生理学の研究を続け、東京工業大学大学院で博士(理学)を取得。「研究の奥深さだけでなく、さまざまな場所で多くの人から刺激を受けました。特にフランスの在外研究でお世話になった友人たちとは今でも連絡を取り合うなど、仕事を通じて生まれた生の宝物です。」